

ネイチャーテクノロジー研究会 発足



東北大學大學院環境科學研究科教授

石田秀輝氏

そこでサンナ地帯のシロアリの巣にフォーカがついている。

100

第一回研究会は多数の出席者を集めた

示会に出展する。それぐ
い

A photograph showing a group of people seated around a long table in a conference room, facing a man standing at the front who is giving a presentation. A large projection screen is visible in the background.

新しい形のテクノロジー

新しい形の二
講演するネイチャーテクノロジーの第一人者の石田教授
は正しいのか、そういう議論が起る前にから話を始めよう。
では実験室のような
ネイチャーテクノロジー
があるのか。例えばシロ
アリの巣。30×30センチ
なつても表面の中で快速に
暮らしたのが、エアコン
がエネルギーや自然の
規則があつて難しくな
ことが予想される。
やがて、室中の床や壁
や天井が、家の中の湿度
や湿度、室内気候を自動
的に検知して、それを基
に御する。そういう床や壁
や天井を持つてやれば
いい。そこでサバンナ地帯の
シロアリの巣に「フォーカ
シ」を行つていることが分
かっている。

① 未使用

技術に「粹」の概念を

第1回研究会

講演

自然のすゝみを賢く活かす

講演を熱心に聞き入る研究会の出席者

自然から循環型社会 学ぶ 地球環境の問題点を明確に

点があるとすると、いか
テクロジーに組み込まれる
に自己を我々と同様に重
ることで、新しいテクノロジ
常に持つべきが重
シのなかで生き残
要になる。私はその観点
ではないか。私はそ
を持っているのは日本人
ように考えていて、どう
だらうと思ふ。なぜ日本
いう考案がネイチャーや
テクロジーの二つの目
人だけがそういふ結果
を持ったのか。それは口
切り口となる。

れば、この土の植栽を全
く裏切るようになって、
らの土の種類によっては、
やらいのケタビティで、土を
やらいのケタビティで、土を

性といふ欲望形態を
持つてゐる。我々は環境
や社会を考える、また時局
や生活構造の不可逆性も認
める。一見して相容れる
ように見えるが、しかし、
さうしたモノづくとい
うの考え方いかなければ
ならない。我々は環境
を自然として生きる
問題を考え、どう生き
るかを考えること、改進工
事などをいつづけてい
きたい。

方のかたち

す